

第3部 総合戦略

1. 人口ビジョンより見出した目指すべき将来の方向

人口分析の結果などを踏まえ、ニセコ町が「町民が環境を生かすまち」を掲げて目指すべき将来の方向を整理する。

(1) 経済的側面

【人口ビジョンなどから見出した現状・課題】

- 人口は増加傾向が続いているものの、生産年齢人口が微減した。
- 地域全体で働き手不足の状況にあり、特に「サービスの職業」や「販売の職業」では有効求人倍率が高い。
- こうした状況を踏まえると、今後も働き手不足の状態は続くものと見込まれる。
- 納税義務者数一人当たり課税対象所得は、譲渡所得の増などにより、2015年度以降上昇し、札幌市や倶知安町を上回った。継続した課税対象所得の増を見込めるものではないが、当面この傾向は続くものと見込まれる。
- 民間投資は町外へ流出している。また、調達を町外に頼っており、特に、エネルギー代金の流出が著しい。
- 町の基幹産業である農業と観光業が、町外から所得を稼いでいるが、必ずしも雇用者の所得向上にはつながっていない。



【目指すべき将来の方向】

- 地域ならではの資源を生かし、民間消費や調達を町内で受け止められるような地域経済循環の構築・強化が必要であり、それが安定した収入の確保や所得の向上にもつながる。
- 地域資源を生かした創業や事業の拡大を推進するとともに、季節雇用やテレワークなど多様な雇用形態・勤務形態があることから、個々のライフスタイルに対応した働き方を実現できる環境づくりを進める。



地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり

(2) 人口の動向への対応

【人口ビジョンなどから見出した現状・課題】

- ニセコ町の現在の人口増加は、社会増に起因する。日本人、外国人双方の人口が増加している。特にここ数年は、外国人人口の増加が顕著で、今後もこの傾向が続くことが見込まれる。
- 全国的な人口減少が進んでいく中であって、ニセコ町においても2030年をピークに、人口減少へ転じることが見込まれている。
- こうした状況の中で、社会増を追求し続けると、ともすれば自治体間で人口を奪い合う構図になりかねず、それは「人口減少問題」の解決とはならない。
- かつて転出超過であった首都圏から転入超過となった。これまで行ってきた交流人口の拡大や、移住・定住対策などの取組に一定の効果があったものと評価できる。
- 一方で、蘭越町や真狩村など、近隣町村へ転出超過となった。また、町内で就業・就学している人のうち、約23%が町外に住んでいる。地価や家賃の高騰、住宅不足が要因となり、ニセコ町に居を構えることができず、近隣町村へ流出するケースが多くなっているものと推測される。
- また、2030年度末に開業予定の北海道新幹線の札幌延伸や、現在建設中の北海道横断自動車道倶知安余市道路が、今後どのような影響をもたらすのか、住民や観光客の動向に留意する必要がある。



【目指すべき将来の方向】

- ニセコに住みたい、住み続けたいという希望をかなえるため、住宅の整備・確保が喫緊の課題である。
- 北海道新幹線の札幌延伸や、北海道横断自動車道倶知安余市道路の開通も見据えた中で、更なる観光の振興や、効果的な移住・定住対策を推進する。
- 増加する外国人住民をサポートする体制の充実が必要である。
- 定住という形態にこだわるのではなく、まちづくりに携わる人材の裾野を広げていくことが必要であり、近年注目されている、地域と多様なかかわりを持つ外の人材である「関係人口」に着目する必要がある。



交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備

(3) 地域づくりへの対応

【人口ビジョンなどから見出した現状・課題】

- 出生数は、増加傾向を示しており、社会増に起因する人口の増加が続いている中で、年少人口も増加に転じた。
- しかし、20歳前後の世代が転出超過となっている。進学や就職で町外へ転居しているものと思われる。
- また、特にここ数年は、外国人人口の増加が顕著で、住民の多様化が進んでいる。
- 近隣の町村に比べて町民の流動性は高いが、高齢化が進行している集落も少なからず存在する。また、60歳台以上の住民に転出超過の傾向がうかがえることから、今後注視する必要がある。
- 北海道ニセコ高等学校、ニセコ中学校の生徒を対象にアンケート調査を行ったところ、若い世代が将来、様々な形でニセコを応援する力になることが期待される結果が得られた。
- 30歳台から40歳台の女性の労働力率は低下傾向がみられ、出産・育児が一段落しても復職に向けた環境整備が追い付いていないことが要因のひとつと考えられる。



【目指すべき将来の方向】

- ニセコならではの特色ある教育・文化の充実を図ることにより、地域づくりの基礎というべきまちへの共感や愛着を醸成する。
- 人口の社会増が続く一方、高齢化は進行しており、将来的には人口減少へ転じることが見込まれる中であって、町民が地域において、安心して生活することができるような環境を整える。



魅力的で持続可能なまちづくりの推進

2. 総合戦略の体系、内容

ニセコ町において自治創生を推進するにあたっての課題や懸念される事項に対応するため、3つの基本目標を掲げ、その達成に向けた取組の基本的方向と数値目標を設定するとともに、基本的方向ごとに推進する具体的施策を整理する。

基本目標	基本的方向
【基本目標Ⅰ】 地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり	地域資源を生かした産業の創出・振興
	持続可能な農業の展開
	地域産業を支える人材の育成と雇用の創出
【基本目標Ⅱ】 交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備	地域資源を生かした観光の振興
	「関係人口」の拡大
	戦略的な移住・定住対策の推進
【基本目標Ⅲ】 魅力的で持続可能なまちづくりの推進	住宅の整備・確保の推進
	ニセコへの共感、愛着心の醸成
	安心して住み続けることのできる生活環境の整備

基本目標 I：地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり

ニセコ町の地域資源を生かした魅力的な産業を育成するとともに、多様なライフスタイルに対応し、かつ安定した収入が得られる働き方を実現することのできる環境を整備する。

【現状・課題】

- ・人口は増加傾向が続いているものの、生産年齢人口が微減した。生産年齢人口の割合は今後も減少が見込まれている。
- ・地域全体で働き手不足の状況にあり、特に「サービスの職業」などの有効求人倍率が高い。
- ・民間投資が町外へ流出している。また、調達を町外に頼っており、特に、エネルギー代金の流出が著しい。
- ・納税義務者数一人当たり課税対象所得は、2015年度以降上昇しており、当面この傾向は続くものと想定されるが、譲渡所得の増などが要因で、継続した課税対象所得の増を見込めるものではない。
- ・町の基幹産業である農業と観光業が、町外から所得を稼いでいるが、必ずしも雇用者の所得に直結する訳ではないことから、安定した収入の確保と所得の向上を図っていく必要がある。

【基本的方向】

- ・ニセコ町の地域資源を生かした産業の創出・振興
- ・持続可能な農業の展開
- ・地域産業を支える人材の育成と雇用の創出

【数値目標】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
完全失業者数（人）	H27	135	R7	160
納税義務者数一人当たり課税対象所得（千円）	H30	3,184	R6	3,300

(1) 地域資源を生かした産業の創出・振興

ニセコ町の地域資源を生かしながら、化石燃料などの調達に伴う町外への資金流出を減らし、町内の地域経済循環率を高めるための取組を推進する。

また、起業や事業拡大、企業立地の促進などを円滑に進められるよう、環境の整備と支援策の更なる充実を図る。

【具体的施策】

- ①「ニセコ町環境モデル都市第2次アクションプラン」に基づき、省エネルギー・再生可能エネルギーの導入を促進する。
- ②「SDGs未来都市計画」に基づくモデル事業を推進し、経済の地域内循環を高めるための具体的な方策について調査・検討する。
- ③町内企業や商店街の活性化に向け、商工会や金融機関など関係機関と連携して、相談窓口を設置し、支援制度を充実するとともに、企業立地を促進するなど、経済の内発的発展を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
温室効果ガス総排出量（CO2-t）	H29	63,106	R6	61,340
NISEKO生活・モデル地区の入居者数（人）	—	—	R6	130
商工会会員数（件）	H31	183	R6	210

（2） 持続可能な農業の展開

農業の生産力を支える生産基盤の保全や機能向上に取り組むほか、農業者の安定した経営と所得の向上に向け、農産物のブランド化、高付加価値化や販売拡大の取組を後押しするとともに、農業の生産現場で不足している労働力の確保に対応するため、多様な人材の農業分野への参入や、新技術の利活用推進を支援する。

【具体的施策】

- ①クリーン農業の推進や、構造改革特別区域法による酒税法の特例措置（ニセコ町ワイン特区）を生かした醸造用ブドウやワインの生産など、農産物の付加価値の向上に向けた取組を支援する。
- ②就農希望者に対する技術的・経済的な支援などを通じて、地域農業の担い手の確保・育成に努める。
- ③生産力の強化や労働力不足に対応するため、農業生産基盤の保全や機能の向上を図るとともに、新しい技術の導入・活用や農地の再編・整備を推進するなど、作業効率の向上に向けた環境を整備する。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
「道の駅ニセコビュープラザ」の直売所における農産物の売上額（百万円）	H30	300	R6	309
ワイン特区を活用して就農した農業者又は醸造所開設希望者の数（R2～R6）（人）	H30	1	R6	3
就農支援資金を活用して就農した農業者数（R2～R6）（人）	H30	12	R6	10

（3） 地域産業を支える人材の育成と雇用の創出

起業や事業拡大を進める際のスキルやノウハウなどを習得する機会を設け、かつネットワーク構築の機会となる場を設けるなど、地域産業を担う人材の育成を推進する。

また、関係機関と連携して、ニセコエリアの雇用と求職者とのマッチングを進める。

【具体的施策】

- ①後志総合振興局など関係機関と連携し、地域の実態を踏まえた雇用と担い手のマッチングを推進するとともに、テレワークやワーケーションなど、多様な働き方を可能とする環境の整備に努める。
- ②起業や事業拡大を促進するため、ビジネスセミナーの開催や、助成・融資などの支援制度の充実を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
「季節雇用と担い手のマッチング」の件数（件）	H30	1	R6	3
新規事業所数（件）	H26	48	R6	50

基本目標Ⅱ：交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備

北海道新幹線の札幌延伸や、北海道横断自動車道倶知安余市道路の開通も見据えた中で、観光業などを介してニセコ町の魅力を発信することにより、交流人口の拡大を図るとともに、移住・定住につながるよう効果的な方策を引き続き検討・実施する。

また、新たな地域づくりの担い手として、地域と多様に関わる「関係人口」に着目し、その拡大に向けた取組を推進する。

更に、ニセコに住みたい、住み続けたいという希望を実現することのできる居住環境の整備を強化する。

【現状・課題】

- 日本人、外国人双方の人口が増加している。特にここ数年は、外国人人口の増加が顕著で、今後もこの傾向が続くことが見込まれる。外国人住民をサポートする体制の強化が必要である。
- ニセコ町においても2030年をピークに、人口減少へ転じることが見込まれている。全国的な人口減少が進んでいく中であって、社会増を追求し続けると、自治体間で人口を奪い合う構図になりかねず、「人口減少問題」の解決とはならない。
- かつて転出超過であった首都圏から転入超過となった。これまで行ってきた交流人口の拡大や、移住・定住対策などの取組に一定の効果があったものと評価できる。
- 一方で、地価や家賃の高騰、住宅不足が要因となり、ニセコ町に居を構えることができず、近隣町村へ転出するケースが少なからず存在する。ニセコに住みたい、住み続けたいという希望をかなえるため、住宅の整備・確保が喫緊の課題である。
- 近年、地域と多様なかわりを持つ外の人材である「関係人口」に注目が集まっている。定住という形態にこだわるのではなく、まちづくりに携わる人材の裾野を広げていくことが必要である。
- また、2030年度末に開業予定の北海道新幹線の札幌延伸や、現在建設中の北海道横断自動車道倶知安余市道路が、今後どのような影響をもたらすのか、住民や観光客の動向に留意する必要がある。

【基本方向】

- ・ 地域資源を生かした観光の振興
- ・ 「関係人口」の拡大
- ・ 戦略的な移住・定住対策の推進
- ・ 住宅の整備・確保の推進

【数値目標】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
総人口の社会増減(R2~R6)(人増加)	H30	490	R6	500

(1) 地域資源を生かした観光の振興

ニセコならではの地域資源を活かして、需要動向に対応した着地型観光サービスの充実を図るとともに、さらなる観光の振興に向けた体制の強化を図る。

【具体的施策】

- ①ニセコ観光圏や羊蹄山ろく、後志管内など、近隣地域との連携により、地域内に向けた観光情報の発信や、プロモーション活動の強化を図る。
- ②国土交通省の「重点道の駅」に選定されている「道の駅ニセコビュープラザ」をはじめとする観光施設の機能向上や魅力の強化・充実を図る。
- ③宿泊税の導入により観光財源を確保するとともに、二次交通の充実など新たな観光関連施策を展開し、観光客の利便性向上を図る。
- ④さらなる観光需要が見込まれる外国人観光客を対象としたインバウンド対策の充実を図る。
- ⑤国際的なリゾート地として、企業等の会議や研修旅行をはじめとするMICEの受入環境の整備を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
観光入込客数（万人）	H30	167	R6	200
宿泊客延数（万人泊）	H30	51	R6	60
うち日本人の宿泊客延数（万人泊）	H30	29	R6	35
うち外国人の宿泊客延数（万人泊）	H30	22	R6	25

(2) 「関係人口」の拡大

移住した「定住人口」でも、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる地域外の人材である「関係人口」の拡大を図り、人口の裾野を広げるとともに、

関係人口となる人の想いやスキル、知見を、地域の課題解決や新たな視点によるまちづくりへ結び付ける。

【具体的施策】

- ①ふるさとづくり寄付金などの取組を入り口として、ニセコと関わりを持つ「関係人口」の掘り起こしと拡大を推進する。
- ②ふるさと住民票への登録などを通じて、様々な外部の人材との関係の深化を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
ふるさとづくり寄付金の件数（R2～R6） （件）	H30	246	R6	1,000
ふるさと住民票の登録者数（累計）（件）	H30	36	R6	180

（3） 戦略的な移住・定住対策の推進

より着実な移住・定住につながるよう、効果的な手法を検討・検証しつつ具体的な施策を展開するとともに、地域おこし協力隊を積極的に受け入れ、卒業後の定着に向けたサポートを行う。

また、転入者の中でも、増加傾向が続いている外国人住民について、令和元年（2019年）の出入国管理法の改正により特定技能実習生の受入が開始され、今後更なる増加が見込まれることから、受入体制の充実を図る。

【具体的施策】

- ①転入超過となっている首都圏に焦点をあてた取組を展開するなど、実績を踏まえた、より効果的な移住・定住対策を推進する。
- ②地域おこし協力隊員に対し、受入から卒業後の定着に向けた継続的な支援を実施するとともに、ロールモデルや移住・定住対策の担い手として卒業後の隊員と連携しながら取組を推進する。
- ③さらに多様化する外国人住民への対応・サポートを強化するため、国際交流員の増員や、まちづくりへ参加しやすい環境の整備を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
移住相談窓口における面談件数(件)	—	—	R6	15
地域おこし協力隊員の卒業後の定住率(%)	H30	70	R6	70

(4) 住宅の整備・確保の推進

町外からの通勤者が多く、かつ増加する人口動向に対応するため、住宅の整備・確保とストックマネジメントを進めるとともに、高齢者世帯・核家族世帯・単身世帯などの世帯構造・世帯類型に対応し、適正な規模・機能を備えた住宅への居住を促す。

【具体的施策】

- ①公営住宅等の計画的な整備・管理運営を進めるとともに、ストックマネジメントの推進に努める。
- ②民間集合住宅の建設を促進するため、整備費用に対する支援を行う。
- ③様々な年代や世帯構成など、住民のニーズに対応した新たな宅地の開発を推進する。
- ④空き家の所有者に対し、適正な管理を求めるとともに、利活用を促進するための取組を実施する。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
住宅整備戸数（R2～R6）（戸）	H30	322	R6	350
空き家率（%）	H28	1.9	R6	5.0
昼夜間人口比率（%）	H27	98.43	R7	93.00

基本目標Ⅲ：魅力的で持続可能なまちづくりの推進

多様な人々が、ニセコが持つ魅力に共感し、ニセコ町に住んでいることやゆかりがあることを誇りに感じるとともに、安心して暮らすことのできる環境を整える。

【現状・課題】

- 社会増に起因する人口の増加が続いている中で、年少人口も増加に転じた一方で、20歳前後の世代が転出超過となっている。進学や就職で町外へ転居しているものと思われる。
- 特にここ数年は、外国人人口の増加が顕著で、住民の多様化が進んでいる。多文化共生に向け、町民相互の理解促進が必要である。
- 一方、高齢化が進行している集落も少なからず存在しており、60歳台以上の住民に転出超過の傾向もうかがえる。将来的には人口減少へ転じることが見込まれる中であって、町民が地域において、安心して生活することができるような環境を整える必要がある。
- 30歳台から40歳台の女性の労働力率は低下傾向がみられ、出産・育児が一段落しても復職に向けた環境整備が追い付いていないことが要因のひとつと考えられる。

【基本的方向】

- ・ ニセコへの共感、愛着心の醸成
- ・ 安心して住み続けることのできる生活環境の整備

【数値目標】

項 目		現状		目標	
		年度	現況値	年度	目標値
将来ニセコ町に住みたいと考える中学生・高校生の割合(%)	中学生	R1	39.0	R6	50.0
	高校生	R1	40.0	R6	50.0
まちづくり全体についての満足度（住民アンケート調査）		R1	51.0	R6	60.0

（１） ニセコへの共感、愛着心の醸成

ニセコならではの特色ある教育・文化の充実を図ることにより、地域づくりの基

礎というべきまちへの共感や愛着心を醸成する。

【具体的施策】

- ① 幼小中高一貫教育の実施や、コミュニティ・スクールなど、ニセコならではのスタイルの教育を推進する。
- ② ウィンタースポーツなどのスポーツ教育や、地域の人材を活用した公営塾の開設など、地域資源を生かした教育の展開を図る。
- ③ 北海道ニセコ高等学校について、地域の基幹産業である農業と観光業を支える人材の育成や生徒主体の活動を強化・充実するとともに、今後の学校のあり方について検討を行う。
- ④ 有島記念館や、学習交流センター（あそぶっく）を核として、ニセコ町の文化・芸術・歴史の充実を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現状		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
学習交流センター（あそぶっく）の入館者数（人）	H30	40,496	R6	46,000
有島記念館の入館者数（人）	H30	13,081	R6	15,000

（2） 安心して住み続けることのできる生活環境の整備

住民の多様化、高齢化が進んでいる中で、町民が地域において、将来にわたり安心して生活することのできる地域づくりを進める。

【具体的施策】

- ① 自由な利用が可能な居場所づくりや、住民相互の交流促進に資するイベントの開催など、誰もが気軽に利用し、参加することのできる空間や機会の充実を図る。
- ② セミナーやイベントの開催を通じて、様々な言語や文化への理解を促進し、多文化が共生するまちを実現する。
- ③ 多様なライフスタイルに対応し、子どもを安心して育てられる環境の整備・充実を図る。
- ④ 域内交通の最適化を図るとともに、地域住民の生活実態に合った公共交通システムの検討・導入を行う。
- ⑤ 人口減少の到来も見据え、将来にわたって安心・安全に暮らすことのできるよう、計画的な社会インフラの維持・管理や情報基盤の充実を図るとともに、最

先端技術を効果的に活用した取組を検討する。

【重要業績評価指標（KPI）】

項 目	現状（第1期）		目標	
	年度	現況値	年度	目標値
中央倉庫群の利用者数（人）	H30	7,722	R6	15,000
綺羅乃湯の利用者数(人)	H30	129,218	R6	130,000
国際交流イベントへの参加人数(人)	H30	1,653	R6	2,500
待機児童数(人以下)	H30	2	R6	0
子育て支援センター（おひさま）の利用者数（人）	H30	5,374	R6	6,000
ニセコこども館の利用登録者数（学童保育）（人）	H30	73	R6	80
放課後子ども教室の利用登録者数(人)	H30	42	R6	70
女性の労働力率(%)	H27	53.5	R7	54.0
デマンドバスの乗車人数（千人）	H30	17	R6	20